

エコネットワークスと考える サステナブルな働き方

2009年4月20日
有限会社エコネットワークス

石油ピーク、気候変動、少子高齢化、グローバル経済の影響・・・「いまの社会は持続可能でない。社会を、経済を、政治を、企業を変えなければ」と思うが、なかなか変えられない・・・。そのようにもどかしさや閉塞感を抱いている人は少なくないかと思えます。私たちもその一人です。でも、視点を変えてみて、私たちがその気になれば必ず変えられるものがあるとしたら。それは、自分自身の「働き方」ではないでしょうか。

少し想像力を駆使してみましょう。さあ、サステナブルな時代がやってきたとします。

さて、あなたはそのとき、どんな場所で働いているでしょう？
どんな職場で、あるいはどんな会社で？
どんな付加価値を生み出して、どう生計を立てていますか？
私生活や市民活動とのバランスは？
人生の価値は、どのように高まっているでしょう？

私たちは、皆様と一緒に、この問いを突き詰めて考えてみたいと思います。
その過程のなかで、これから求められる会社や地域のあり方が見えてくるかもしれません。

【サマリー】

- 私たちの一人ひとりの生活には、「プロフェッショナル(職業)」「プライベート(個人・家族)」「ソーシャル(地域・社会)」な存在としての側面があります。
- 私たちは、どれかを犠牲にするのではなく、このすべての側面を調和させ、相乗的に高めていく働き方、生き方がこれから当たり前になっていく、という仮説を立てています。
- そのような「働き方」のヒントを、世界の様々な取り組みから学び共有していきます。

【1. 背景】

「日本人は一生懸命仕事をして、豊かな生活を送っているのに、ハッピーにみえない。」

海外の友人が日本に遊びに来た際、残したコメントです。生き生きしていない・・・ふっと周りを見渡して、そう感じたことはないでしょうか。

私たちの生活の中には、3つの側面があります。

- 〔プロフェッショナルとしての存在〕労働をし、収入を得るという側面
- 〔プライベートとしての存在〕家庭での時間などを含む、一人の個人としての側面
- 〔ソーシャルとしての存在〕ボランティアやコミュニティでの活動など、公共・社会的な側面

本来、人間の生活のなかでこの3つはどれも大切で、重層的に重なりあっているのに、今の社会では、どれかが犠牲になるのは仕方がないとあきらめてしまっていないでしょうか。

例) 「犠牲」の結果

- ・ 働きすぎによる心身の消耗
- ・ 育児や介護の負担
- ・ 地域コミュニティの希薄化

- ・子どものゲーム、携帯依存
- ・ストレス発散の過剰消費

これらの「犠牲」を根本的に生み出さないですむ「働き方」とは、どのようなものなのでしょうか？

【2. 「新しい働き方」を考える動き】

企業の中でも、従来の働き方を根本的に見直そうとする動きがあります。新しい働き方を定義し、実践すべく動き出している代表的事例をご紹介します。

- 富士ゼロックス「2020年ビジョン」
 - ・業務の約8割はコミュニケーション
 - ・それに伴うCO2排出量の削減を目指し、コミュニケーション技術の革新を通して新しい「働き方」や「働く場」を創造し社会に提案していく
 - ・インターネット会議を駆使することで、年間120人以上の出張を削減し、余計な移動を減らす
- パナソニック「e-work」
 - ・「労働＝会社に出勤し、自分の座席にいること」という古い考え方からの脱却を目指す
 - ・自立的に業務を完結できれば、誰でも利用できるIT・ユビキタスを駆使した仕組みを社員に提供していく

コミュニケーション技術の発達により、働く場所や時間を自分で選ぶことが急速に可能になりつつあります。環境負荷の面からも、余計な移動を減らせるのでプラスにもなります。情報セキュリティ、勤務状況の管理、そして何より付加価値やコミュニケーションの考え方などの面でこれから様々な革新が起きてくるでしょう。

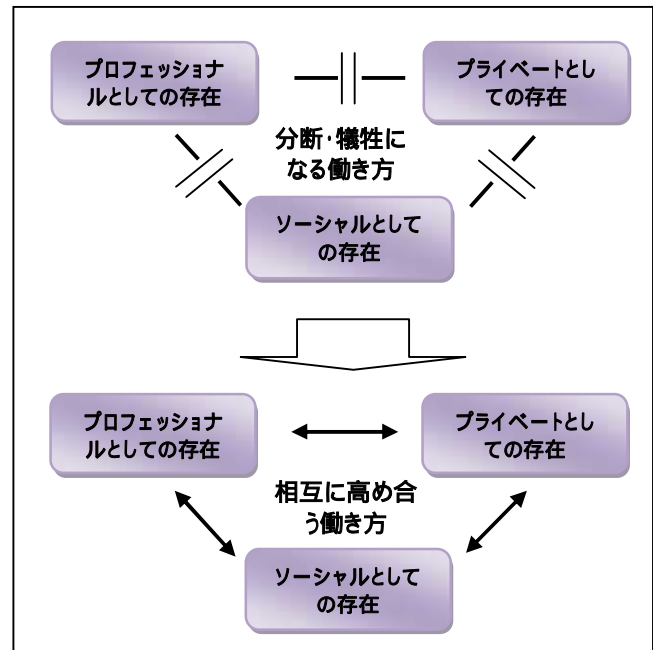
【3. 3つの側面の調和を促し、高め合う、様々な取り組み】

私たちの存在としての3つの側面。これらをつなぎ、相乗効果を生み出す取り組みが生まれています。

◆ プライベート - プロフェッショナル

個人としての存在と、職業人としての存在が矛盾せず、高め合うようにする取り組み。

- ワーク・ライフ・バランス大賞
 - ・新しい時代の新しい生き方を目指し、「働き方」と「暮らし方」双方の改革による「調和のとれた生活」の実現を図る運動を進める。
 - ・(財)社会経済生産性本部が2007年から開催。
 - ・2008年の大賞は「シゴトダイエット」と労働時間削減を、労使一体で推進したパナソニック電工 / パナソニック電工労働組合が受賞。
- "Let my people go surfing" (社員をサーフィンに行かせよう)
 - ・アウトドアブランドのパタゴニアの創業者イヴァン・シュナイードの経営方針。
 - ・いい波が来たらサーフィンに行ってもOK。
 - ・その前提として、一人一人が判断する責任感や好きなことを思いっきりやるための仕事の効率性向上、そして周囲もそれを許す信頼が求められている。



- 「好期」高齢者ビジネス「いろいろ」
 - ・徳島県上勝町で行われている高齢者福祉産業。
 - ・高齢者がインターネットを駆使し、手作りの葉っぱのつまものを販売。
 - ・高齢者のやりがい・生きがいを作りだし、ITを駆使したビジネスモデル・組織作りを行い、創業20年で売上2億5千万円を達成。

◆ ソーシャル・プロフェッショナル

職場での自分と、社会人・市民としての存在が矛盾せず、高め合うようにする取り組み。

- キリングループの人材制度
 - ・通算3年間までボランティア休暇の取得が可能。
 - ・青年海外協力隊など、仕事で培ったノウハウ・経験を還元できる仕組み。
- 環境NPO オフィス町内会
 - ・企業が共同してオフィス古紙のリサイクルに取り組む環境NPO。
 - ・1000事業所を超える会員企業と40数社の会員回収会社を結ぶネットワークに成長。
 - ・取り組みは、東京電力の社員が中心となって始まり、東京電力が会社として「ゆるやかに」サポート。
- NEC 社会起業塾
 - ・ソーシャルベンチャー、事業型NPOを支援するプログラム。
 - ・NECが社会企業家育成をミッションとするNPO法人ETIC.と協力して実施。
 - ・資金サポートやスキルアップ講座の開催、PR支援などを提供。
- 「半農半X」の哲学
 - ・半農半X研究所を主宰する塩見直樹氏が提唱するコンセプト。
 - ・半農とは暮らしの中に農があり、農を意識して生きること、半Xは自分の大好きなことをテーマにしていくこと。
 - ・半農半Xはお金や時間に追われず、本当に大事なことに集中し、人間らしさを回復するライフスタイル。

◆ プライベート・ソーシャル

個人としての存在と、社会人・市民としての存在が矛盾せず、高め合うようにする取り組み。

- NGO、ボランティア活動の広がり
 - ・学生の6割以上がこれまでにボランティア活動を経験（日本学生支援機構調査）。
 - ・「自分の職業を通して」社会の役に立ちたいと思う人の割合が全体の1/4に増加（内閣府調査）。
- 環境NGO ジャパン・フォー・サステナビリティのボランティア・マネジメント
 - ・約300人のボランティアがネットワークでつながり環境NGO ジャパン・フォー・サステナビリティの活動をサポート。
 - ・日本の環境の様々な取り組みを毎月30本の記事にして日英で世界に向けて発信。
 - ・情報収集 = > 日本語記事執筆 = > 英語翻訳 = > ウェブへの公開の一連の作業を全てボランティアの手を借りて運営。
- NPO ソーシャル・コンシェルジュ
 - ・何か世の中のためになることがしたい、でも具体的に何をしてよいかわからない人に情報を提供。
 - ・できるだけわかりやすい形で情報を発信し、必要に応じてアレンジ/コーディネートする。

【4. 私たちの実践】

私たち自身も、日々の活動の中で、3つの側面の調和を促す高め合う働き方を実践しています。

- 自立したプロフェッショナルを目指して
エコネットワークスのスタッフの所在地は、都内や郊外、金沢、バンクーバー、サンフランシスコなど、日本全国、世界各地です。しかしながらその距離の壁は、サービスの実現には全く関係ありません。むしろ、私たちはこのような距離を越えて最高のサービスを実現するために、IT技術を駆使することはもちろん、自立したプロフェッショナルとしてコミュニケーションのあり方について日々研鑽を重ねています。その成果を、お客様とのやりとり、企画やご提案の質、海外コミュニケーションのスピードなど、サービスの質に表現していきます。
- 「ノウハウ会議」の開催
経験もノウハウもバラバラの個人がチームとして機能するためには、定期的にノウハウや情報を共有する場を設ける仕組みが必要です。エコネットワークスでは、「ノウハウ会議」と称した定期的なスカイプでの共有セッションを設けています。各人が持っているノウハウを、時には外部の専門家を招いて、共有・蓄積しています。



【5. 終わりに】

いかがでしたでしょうか。

自然の資源や許容範囲は有限であるという考えがやっと広まりつつありますが、私たち一人一人の人生の時間も有限です。

「プロフェッショナル」
「プライベート」
「ソーシャル」

私たちの生活の3つの側面は、どれも犠牲にするには「惜しすぎる」ものです。

その意味では、これから支持され選ばれるのは、私たちの「人生の価値」を最も高めてくれる会社や地域といえるのかもしれませんが、私たちエコネットワークスはそのような会社を目指します。

これからこのニュースレターを通じて、サステナブルな時代にふさわしい新しい働き方について皆様とともに考えていければと思います。

=====
内容に関するお問い合わせ・より詳細な情報をお求めの方はご連絡ください。
月に一度「サステナブルな働き方」のメールニュースをお届けいたします。
ご不要の方は、お手数ですが下記までご一報ください。

有限会社エコネットワークス 担当：小林一紀、野澤健
info@econetworks.jp

【参考資料】

富士ゼロックス「ライフサイクル全体のCO2排出量を2020年度までに05年度比30%削減」2009年2月16日

http://www.fujixerox.co.jp/release/2009/0216_co2.html

パナソニック e-workの取り組み

<http://panasonic.co.jp/jobs/workstyle/e-work/index.html>

(財)社会経済生産性本部「ワーク・ライフ・バランス大賞」

<http://activity.jpc-sed.or.jp/detail/lrw/activity000886.html>

株式会社いんどり

<http://www.irodori.co.jp/>

イヴォン シュイナード『社員をサーフィンに行かせよう パタゴニア創業者の経営論』東洋経済新報社、2007年

キリンホールディングス ボランティア休業制度

<http://www.kirinholdings.co.jp/csr/workplace/group/employment.html>

オフィス町内会

<http://www.o-cho.org/>

独立行政法人日本学生支援機構「学生ボランティア活動支援・促進の集い」報告書

http://www.jasso.go.jp/syugaku_shien/documents/houkoku_01_h19.pdf

内閣府「社会意識に関する世論調査」2007年

<http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-shakai/index.html>

NEC 社会起業塾

<http://www.nec.co.jp/community/ja/edu/npo.html>

塩見直紀『半農半Xの生き方』ソニーマガジズ、2003年

ジャパン・フォー・サステナビリティ

<http://www.japanfs.org/ja/>

ソーシャル・コンシェルジュ

<http://www.socialconcierge.org/>